横手税務署長賞

誰かの役に

横手南中学校　岩谷　恵和

税金というものは、なくてはいけないものだと思います。

僕は、生まれつき心臓の病気を患っていて、二歳の時に手術を受けました。かなり大きな手術だったらしく家族は、みんな心配していたそうです。手術は無事に成功し、大きな後遺症も残らずにすみました。中学三年生になった今、周りの友達と同じように生活し元気に過ごしています。

ある時、母にこう尋ねました。

「僕の心臓の手術にどれくらいお金がかかっているの。」

すると母は、引き出しからファイルを取り出し、その中から何枚かの紙を取り出しました。その紙には「医療費明細書」と書いてあり、右下の欄には、費用が記載されていました。驚いたことに、手術費用に数百万近くかかっており、そのほとんどは税金によって助成されていました。手術代のほかにも、その後の入院費用や定期的な検査代金も、税金がほとんどを払ってくれていたのです。

こんなにも金額がかかっていたことに改めて驚き、そして非常にありがたいなと思いました。僕が今、元気に過ごせているのは、税金があるおかげなのだなということを痛感しました。

病気をもっていて手術が必要な人が、医療費が高すぎるが故に治療をあきらめたり、取り返しのつかないようなことが起きたりすることは絶対にあってはいけないと思います。それは、当事者の将来だけではなく、支えてくれている家族や周囲の人々の在り方にも関わるからです。

中学生である僕たちが普段税金と関わりをもつのは、買い物をするときに払っている「消費税」くらいです。大きな金額ではないし、今までも当たり前に払ってきたため意識したことはありません。しかし、僕が支払った消費税も誰かの役に立っているのだろうなと思います。面倒くさい、無くてもいい、と思わずに僕らは税金を払う必要があるのです。

中学三年生になり、社会の授業では人々の権利や税金の使い道などについて学習するようになりました。そこで初めて、皆が払う税金が、人々の生活を支えるために上手く循環していることを学びました。そしてその循環には、税金の仕組みは僕たちの将来を支えられるようにできているのです。誰かが払ってくれた税金のおかけで、誰かが病院で治療を受けることができる。税金による様々な恩恵を受けた子供が大人になって、日々の生活の中で確実に納税する。その税金は、また誰かの役に立っていく。こうやって今の日本は回っているのだと思いました。

僕は今、受験を考える時期に来ました。どの高校に進学するかまだ悩んでいる途中ですが、これからのことを考えて決めたいです。そして将来、税金をきちんと払い、誰かの役に立てる自分になりたいと思います。